

景観形成重要建造物等指定一覧（令和7年度第18次指定）

令和8年3月31日指定

	地域	名称	所在地	選定の理由等	写真等
1	但馬	佐川家住宅	豊岡市城南町	江戸末期に建てられたとされる住宅で、佐川家は合併前の豊岡町長を代々務めており、初代豊岡市長佐川辰夫もその分家筋に当たる。近世から続く但馬屈指の名家として、本卯建を備えた大規模な平入の主屋や複数の蔵は、北但大震災を経てもなお、大きな改変なく現在までその姿を伝えている。	
2	東播磨	旧三星化学事務所	高砂市高砂町	昭和5年に原料商や運送業に関わる会社の事務所併用住宅として建てられた。江戸時代には港町として繁栄した水運の拠点であったが、明治時代以降、鉄道・道路等の発達とともに陸運による流通網が形成された高砂町において、当建物は高砂町の近代工業都市としての繁栄と旧国鉄高砂駅前の近代化により増加した運送業を営む社屋が立ち並んでいた歴史を伝えている。	
3	丹波	旧田原家住宅	丹波市柏原町	江戸末期、後期柏原藩陣屋下屋敷に建てられたとされる五代藩主信守四男津田長敏邸。茅葺に半間の棧瓦葺の下屋を設けた武家屋敷造の建屋は、過度な贅沢を避けた構成ながら、武家としての格式と秩序は維持されたものであり、地方小藩に属する上級から中級武士の実際の居住空間をほぼ当時のまま現存しており、江戸末期の武士の生活文化を今に伝えている。	
4	淡路	永田家住宅	南あわじ市倭文長田	明治中期に建てられたとされる住宅で、貴族院議員や東京市長等を歴任したほか、俳人（俳号：永田青嵐）としても知られる永田秀次郎氏の生家である。主屋のほか離れ座敷、家具蔵、長屋門、土蔵などの附属屋や石積みみの池も明治中期から大正期に建築されたもので、一部後世の改修が見られるものの近代における大規模農家の屋敷構えをよく伝えている。	

	地域	名称	所在地	選定の理由等	写真等
5	西播磨	庄家住宅	宍粟市 山崎町	江戸末期に建てられた住宅で、庄家は山崎藩の庄屋、大庄屋を長く務めた家で、二千以上の古文書が残されており、大庄屋の職務に関連した貴重な資料が多く、山崎町史にも引用されている。現在も大庄屋としての姿がよく残されており、播磨地方の豪農の伝統的要素が色濃くみられ、山崎藩の歴史を伝えている。	
6	但馬	中藤田家住宅	新温泉町 諸寄	明治後期に建てられた住宅で、中藤田家は、江戸中期から廻船業を営み、北前船の繁栄とともに財を成しており、平成30(2018)年に廻船問屋「網干屋・中藤田家」として日本遺産「北前船寄港地・船主集落」の構成文化財に認定されている。隣接する藤田家、右岸にある分家の東藤田家や千原屋・道盛邸と共に、北前船寄港地の繁栄と歴史を今に伝えている。	